

## 平成26年度第1回宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録 (要点筆記)

- 日時：平成26年8月28日（木曜日） 14時から16時
- 会場：海の道むなかた館 講義室
- 出席者：菊川会長、亀井副会長、藤委員、園元委員、花田委員、河窪委員、牟田委員、藤本委員  
【事務局】 西谷館長、清水課長、岩佐室長、広渡係長、白木係長、三好企画主査  
判田主査

### 1. あいさつ

【省略】

### 2. 紹介

3月末で鎌田委員が退任、4月より藤先生が後任

### 3. 報告事項

#### (1) 平成25年度第2回宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録について

【事務局説明】

##### ○会長

ご自分の発言を中心にチェックをかけ、来週一杯ぐらいまでに修正を事務局に、ファックスか電話でお願いします。

##### ○事務局

ファックスもしくは、電話で事務局に連絡をお願いします。

##### ○会長

期限は来週一杯です。これは、ホームページには載るようになっていきますね。

##### ○事務局

前回の会議のときにご説明しましたように議事の要旨をホームページに載せるようになっていきます。

##### ○会長

ただし、固有名詞は載らないということでしたね。

##### ○事務局

ホームページには、氏名のところは削除します。会長だけはわかると思いますのでそれだけご了承ください。

##### ○会長

はいわかりました。ではそういう要領でよろしくをお願いします。

#### (2) 平成26年度 宗像市郷土文化学習交流館事業について

【事務局説明】

##### ○会長

7月18日の舞台役者による読み聞かせで、どんな本の読み聞かせをしたのか。9月7日のいせきんぐ宗像シンポジウムは、開催場所は宗像ユリックスですが、主催者は海の道むなかた館でよろしいでしょうか。

##### ○事務局

「不言さま」と題して宗像の沖ノ島を舞台にした語りをしました。読み聞かせを行った方は七色の声をお持ちで、様々なパターンの声を用い、また、その横で紙芝居を見せながらでしたので、皆様方聞き

入っているようでした。

○事務局

いせきんぐシンポジウムは、文化財系の事業となるので主催は宗像市教育委員会となっています。また、田熊石畑遺跡村づくりの会というサポート団体の協力を得て開催しました。

○会長

海の道むなかた館との関係は、郷土文化交流課がここにあるからという理解でよいですか。

○事務局

郷土文化交流課の中に館の運営をする交流係と文化財係とがあり、今回のいせきんぐシンポジウムは、文化財係が主ではありますが、このシンポジウムの題材である「邪馬台国」が9月30日から本館で開催します秋の特別展と同じであったため、館としても協力して行うイベントとして位置づけ、報告させていただいています。

○委員

年報17ページの8月29日 HI JAPAN 韓国ナムジンツアーは韓国からのお客様ですか。もし、お分かりになれば当館以外に宗像のどこを訪れているのか教えてください。

○事務局

韓国ナムジンツアーは、韓国のお客様がこられたツアーです。韓国の歌手で非常に有名な方が宗像ユリックスでイベントをされ、その参加であわせて、この館を訪ねたということです。

○委員

シンポジウムの申込みは、どのくらいあったのでしょうか。

○事務局

320名ぐらいです。

### (3) 平成26年度郷土文化交流課（文化財係）事業について

#### 【事務局説明】

○委員

文化財の発掘調査の報告書は必ず作られると思いますが、一般に市販されておらず限定されていると思います。今は、全部パソコンで作りますので、ホームページに公開していますよね。年に何冊か発行すると思いますが、全部溜めていくとサーバーの容量の問題もありますので、例えば、報告書刊行3年とか5年とか限定し、その期間、ホームページでダウンロードできるという方法で公開していくこともあり得ると思います。興味のある方で全報告書を読みたいという方もおられるので、そういういった対応をご検討できないでしょうか。

○事務局

むなかた電子博物館で、古い順から報告書をPDF化しているのですが、半分ぐらいで止まっている状況です。注目をされました田熊石畑遺跡についてはアップしています。仕組みとしてはありますが、あとは、我々がコンテンツを増やしていかなければいけないという状況です。

○委員

湯気がたつような最近のものからあげていって、余裕があれば古いところを順次足していくということをご検討いただければ、利用しやすくというように思います。確かに電子博物館で少しずつされているとは思いますが、アップロード作業は、文化財のお仕事になるのですか。

○事務局

共同委託ということで市民の団体が運営しています。電子的な博物館だけではなく、北斗の水くみ写真展など、いろいろなイベントもやっています。連携して、報告書についても弾力的にできているものから取り組んでいきたいと思っています。

○委員

新しいものは市の文化財系のホームページに載せ、一定の年数が経つと博物館へ貯蔵するなどの住み分けを考え、できるだけ利用しやすいようにお願いいたします。

#### 4. 議事

##### (1) 平成25年度宗像市郷土文化学習交流館事業報告(年報)について

###### 【事務局説明】

○委員

この利用状況の年間の入館者というのは宗像市の方と県内、県外、市内、市外の方がほぼどれくらいの割合かわかりますか。

○事務局

年間通しての市内、市外の内訳はわかりかねます。特異的なもののアンケートになり、全体のものとは若干違いますが、平成26年度の1月1日から5日まで158名の方のアンケートをとったところ市内の方が69名、宗像市外で福岡県内の方が75名、福岡県外が13名になっています。

○委員

体験学習を夏休みにされていますが、PTA関係の方に意外と知られてないです。この体験学習には必ず親御さんがついてくると思うのですが、親御さんたちに対し、宗像にはこういう歴史があるんだと感じていただければもっと効果があると思いました。常設展示は動かしたりしないでしょうが、夏休みだけは小さな子どもさんでもわかりやすくし、ここに来たらいいよみたいにするれば、地域の方たちにも理解していただけるのではないかと。

○委員

先ほどのご質問に対し、現場で地域学芸員としております私から補足させていただきます。県内県外の事ですが、私がお伺いしたとき、遠くからの方も結構います。宗像の沖ノ島にすごく興味をもつ方は、東京など遠くからきた方もたくさんいます。勾玉づくりなどの体験学習の時は、保護者もみえ、体験している間は側にいます。体験学習が1時間ぐらいですので、子どもたちも疲れて、展示を見ないで帰る場合も多いです。ただ、今回、夏休みということでクイズラリーをしていたので、こちらから声かけをするとお母様たちも参加していただけます。ここには歴史にすごく興味を持って来られる方と全くそういう事を知らないで来られる方がいます。その場合でも、説明を見る際に、あまり詳しくない方にもわかるよう地域学芸員ができる限り説明を行うシステムになっています。

○会長

太刀洗で3D映像の後に、読み聞かせの方がいて効果があるようだったので、むなかた館も体験の中にそういうものを少しいれれば効果があるのではないかと思います。

○事務局

読み聞かせの事ですが、広報にも載せましたが「遙かな島のものがたり」というおはなし会を毎月、3Dシアターで子どもさん・親御さんを対象にしています。

○委員

少し補足します。沖ノ島の約18分の3D映像を見て、わかる子はほとんどいません。途中で退屈しています。この宗像というところはどんなところなのかということや沖ノ島はどんなところなのかと、予備知識を持ってここを訪れるとずいぶん子どもたちに対する印象はかわってくると思います。読み聞かせは、月に1回なので、そのときに来られたお客様にしか聞いていただけないことです。これをどうにかして子どもたちに幅広く聞いてもらい、こちらに興味をもって、ここが楽しい、いい博物館とわかってもらうにはどうしたらいいかが一番の課題です。何か良いご意見がございましたらぜひお願いいたします。

○委員

語り部を育成されるのは。

○委員

回数を増やすということですか。

○委員

「宗像のかたり部の会」というものをつくり、人材を増やし、たくさん語りがここでできるように人材育成をされるのがいいのかなと思いました。

○委員

その都度、ニーズに応じてということでしょうか。

○委員

やりたいという人を集めて、その方たちがうまく成長するまで指導し、その後は実際やってみるということで、語り部ができる方たちを増やすというのがいいかなと。

○委員

わかりました。

○会長

その年報を中心にいかがでしょうか。今世界遺産の話はどうなっていますか。

○事務局

福岡県、宗像市、福津市との行政関係、市民団体、教育関係などが委員となって組織する「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議を作っています。その中で専門家会議等を設け、推薦書を作りました。本年の4月に、推薦書の素案と包括的保存管理計画の素案を文化庁へ提出しました。26年度希望いたしました「宗像・沖ノ島と関連遺産群」と「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」と「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の3つに加え、27年度希望が、「百舌鳥・古市古墳群」と「佐渡の金を中心とした鉱山遺跡と関連遺産」ということで5つが手を挙げました。その後、6月に文化庁の世界遺産の特別委員会小委員会のヒアリングを受けました。その結果、特別委員会の中で審議されまして26年度日本政府から文化遺産の推薦は「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」に決まりました。その結果を受け、いろいろな課題が出されています。その後4つ課題が示されました、1つは、沖津宮・中津宮・辺津宮、沖津宮遙拝所それと古墳群の関係で、古墳群は新原・奴山古墳群が構成資産に選ばれていますが、本来津屋崎古墳群の被葬者は、沖ノ島の祭祀を担っていたと考えられており、特に勝浦峯ノ畑古墳は沖ノ島21号遺跡で出土した鏡と同型のものが出土していて、沖ノ島と関係の深い古墳です。そのなかでなぜ今回は、新原・奴山古墳群を選定したのかということ。2つ目は、新原・奴山古墳群の中にあります7号墳でこれが方墳といわれていますが、本当に古墳なのか、祭壇なのかはっきりさせること。3つ目が沖ノ島をどういった形で守っていくのか、明確に記すこと。4つ目が、今後保存管理をしていく中で屋外広告物条例や景観デザイン会議というものを設置するが、その位置づけはどうなっているのか。というご指摘をいただいています。それを受けまして8月4・5・6の3日間、国際専門家会議を開いてそれに対してどういう形で今後進めていくかという話がありました。1つ目の津屋崎古墳群の中の新原・奴山古墳群が選ばれた理由を明確にするという点は、新原・奴山古墳群は、目の前に大島があり、その背後に沖ノ島があつて、もともと勝浦のあたりが入り江でした。その入り江を望む丘陵に前方後円墳や円墳など当時の海人族の階層差を読み取ることでできる古墳が41基まとめてきれいに保全をされています。沖ノ島の祭祀に関わった古墳時代の状況がわかり易く、海を意識してそういった場所に古墳を築造したということ进行全面に出すべきではないかと指摘されています。津屋崎古墳群は津屋崎地区ですが、宗像においては2千基ぐらい古墳がありその中でとくに海を意識して祭祀に関わったことが証明できる新原・奴山古墳群ということで市内の古墳分布図などをつけて説明すべきではないかという専門家の意見がありました。2つ目の新原・奴山古墳7号墳が古墳か祭壇かというのは、通常、開

発で遺跡や古墳がなくなる場合は発掘調査を行うのですが、開発がなければそのまま保存となっています。7号墳はそういった開発にかかっていません。カントリーエレベータができて壊されたところは、調査を実施していますが、今回、指摘をうけ、特別に文化庁から指示が出され、福津市教育委員会と九州大学が共同で確認調査をすることで結果を出すこととなっています。3つ目の沖ノ島の保存管理ですが、これも漠然としたご指摘でしたので文化庁を通して確認をしたところです。沖ノ島の漁港は、通常であれば漁業関係者の漁船しか入れないが、知らずにプレジャーボートが入ってきて、そこでバーベキューをやって缶ビールを捨てて帰ったということがありました。漁民が注意するとどこにそんなことが書いてあるか、上がるなど書いてないじゃないかと言われるようなトラブルもおこっています。漁民の方は、沖ノ島を世界遺産にすることに反対だったのですが、プレジャーボートの寄港の制限などはっきりするのでもっとPRすべきだと指摘されています。今では、県と県の水産振興課の方で沖ノ島の漁港に「ここは緊急の場合を除いて漁港であってプレジャーボートが立入る場所ではありません。」などと記した看板を設置しようという動きがでているところです。それと沖ノ島に行かれたことがない方はわからないかもしれませんが、沖ノ島は土砂崩れでコンクリート補修しています。本来であれば、自然のネットをはって草を生やしてという手法もあるのですが、かなり崩落の仕方がひどかったのでコンクリートで補修しているのですが、信仰の島というわりには、コンクリートが景観上良くないのではないかという指摘を受けています。港の形状もコンクリートなのでそのあたりも将来的にどうにかならないかという話があります。もう1点、沖ノ島にはオオミズナギドリが10万羽ほどきていますが、祭祀遺跡に巣穴をあちらこちらに穿っており、それをどうするかという指摘も受けています。それに関しては、今後状況をモニタリングして、最終的にネットを張り巣穴ができないようにする対策も考えます。そういったことも包括的管理計画の中に書くべきであろうということです。4点目ですが、宗像市の景観計画、景観条例は、本年度10月から施行されるようになっています。ある程度景観は担保されますが、問題は屋外広告物です。それに関する規制はありません。景観を守る上で非常に重要なので早く制定しなさいとのご指摘を受けています。特に世界遺産に特化する場所は、景観計画、景観条例に厳しい要件が付けていますが市独自の屋外広告物については条例を作ってくださいという課題がでています。もう1つは、景観を守るために景観審議会、市の方では、市民の方、業者の方が構造物を建てられる場合にどんな形状や色彩がいいのか基準を示していますが、その相談にのるためのアドバイザーを都市計画課に設置します。そういった指導をしながらまた大きな公共工事に関しては、景観に配慮しているかを審議する場ということで景観デザイン会議を設置しています。登録した後の管理、モニタリング等の保存管理活用に関しての組織を明確に示し、また来年度は、再び推薦書等包括的保存管理計画を提出し、日本政府による推薦が国内で決まれば、29年度世界遺産登録の可否が決まります。

○会長

29年を目指そうということです。うまくいっていると思うのですが、それぞれご意見やご助言等ひとこといただけたらと思います。

○委員

たくさんイベントをされているので文化財係の職員がしっかり腰を据えて勉強する時間があるのかなと心配いたしました。やはり私も一学芸員として勉強を怠ってはいけなくて自らに発してはおりますがなかなか難しい、しかもこのようにたくさんイベントを抱えていてはたいへんかとお同情いたします。

○委員

今後、いせきんぐができた時に、こことどう差別化をはかっていくのかが1つ大事だと思います。小学校のカリキュラム上、年2回ここといせきんぐを見学するのは費用の問題や教育課程で難しいと思う。ここで体験をして、むこうでは違った勉強をできることが理想と思います。

○委員

常設展、企画展、特別展と次から次へとやってまいります、これに関して地域学芸員に対する予習をできるだけ徹底していただきたいと思っています。

○委員

この会館にすれば、何かイベントがあっている、企画展があっているという意識が市民の中に広まって根付いていっているのではないかと感じました。今の推移をなお一層伸ばして頑張ってくださいと思います。

○委員

年報4ページの地域学芸員の役割の欄に、もう少しどういう活躍をされているかを書いていただくと、市民と一緒にここは館を運営されていることがわかると思う。

○委員

1つだけ先ほど韓国の質問をさせていただきましたが、ご存知の通り韓国人が日本にくるとするのは200万人から250万人ぐらいで、いろいろな状況の中で増えたり減ったりしている訳で、調べたところによるとその4割が九州にきています。九州に来る4割は、日本の事を比較的知っている方が九州にきています。かれらなりのモチベーションでもって九州を訪れているという一つの調査もありまして、今後、当然中国人、タイ人、インドネシア人、インド人も増えてくる訳ですが、特に韓国との民間交流、比較的日本をよく知っている韓国人が今後とも増えてくれば、この館として対応の仕方みたいなものを今後あきらかにしていく必要がでてくると思います。

○委員

年報P6の25年度の決算ですが、整備事業費を除いて総額が約7千2百万ぐらいだと思います。その内の委託料について少しお伺いしたい。展示活用事業費と管理運営費、お掃除なども含んで、3千7百万円ぐらい、6割を占めているこの委託料の主な中身、それと職員の方の職務との関係みたいなことを差し障りのない範囲でお聞かせ願いたいのが1点です。もう1点は、博物館機能というのがメインであるはずですが、ユリックスとすみ分けがあるのか。それと関連して滝さんの絵が飾ってあるが、この館に寄贈されたものか。

○事務局

宗像市に寄贈されたものです。

○委員

油絵だと思うので下手に置いておくと空調のないところだと将来的にカビがはえてボロボロになるはず。保管は今後どういようになくなっていきますか。また、その扱いの将来的な見通しは。

○事務局

滝先生の方から12点の寄贈があり、大きさも200号という非常に大型のもの小さいものがある。基本的には、おっしゃるとおり保管状況としてはよくない場所に置いている形になりますが、それを将来的に見越した施設というものは現在のところないような状況で検討課題の1つと考えています。

○事務局

特別展として春と秋にするものは職員が主に担当し、どういった考古遺物を他市から借りてくるか、またどういった構成で展示を行うかを企画立案しています。また、コストは他市からの遺物の運搬が必要となってまいります。貴重な考古遺物になりますので運搬経費だけで予算としては、約200万を委託運搬費として持っています。また、考古遺物を展示する台座、形状がいろいろですので展示する台を作成するのに20万程度です。先ほどお話ししました電子博物館の運営で約200万円、むなかた館のPRに40万ほど、その他に企画展の経費があります。この企画展に対するイベントは、企画の外注や物品購入などで1千7百万円強を委託している状況です。管理運営は、この館の運営で、毎日1回の清掃、消防点検や館を管理する上での委託になります。つづきまして、ユリックスについてですが、市が公益

財団法人宗像ユリックスに指定管理という方法で委託しています。また、ユリックスは、文化とスポーツの関係の拠点であり、当館は、博物館機能、世界遺産のガイダンス機能、賑わいづくり、体験学習のこの4つ機能を軸にして運営を行っています。

○委員

先ほどの企画展、1千7百万円強の中には、人件費も入っているのか。

○事務局

体験学習のロボット制作で宗像高校の生徒にお手伝いいただいたり、イベントでのスタッフ派遣などもあり、人件費という名目にはならないが、委託料にはそのような労賃的なコストも一部含まれています。

## 5 その他

### ・今後の協議会委員について

○事務局

8月末でこの協議会の委員の任期が満了します。今後の予定としては、9月ないし10月にメンバーを確定し、その後、委嘱することになります。

○事務局

これもちまして審議会を終了します。ありがとうございました。